MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2026.9.26

第 1221 回放送分『肝臓がん』4 回目

ゲスト：川﨑洋太ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは「肝臓がん」をテーマにお送りしています。
お話は、鹿児島県医師会 川﨑洋太（かわさき ようた）ドクターです。
川﨑さん、最終週もよろしくお願いいたします。

川﨑洋太Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、原発性肝臓がんの 2 つ目、肝内胆管がんについてお聞きしました。
脂肪肝の人が増えてきていることもあり、昔に比べて、肝内胆管がんの患者さんが徐々に増えているというお話でした。
そして現在、肝内胆管がんの根治的な治療は手術のみであること、そのため血液検査で異常が出た場合は、きちんと専門医のいる病院で検査を受けることが大切とのことでした。今日は何についてお話しいただけますか。

川﨑洋太Dr.

先週、先々週は原発性肝臓がんについてお伝えしましたが、今日は転移性肝臓がんについてお伝えします。

二見いすず

転移性なので、他の臓器から肝臓に転移してくるということですが、
「どの臓器からが多い」というのはありますか？

川﨑洋太Dr.

それはありません。さまざまな臓器から転移してきます。
ただしその中でも手術できる可能性が高いのが、大腸からの転移です。

二見いすず

大腸からの転移ですね。それはなぜなのでしょうか？

川﨑洋太Dr.

大腸がんに関しては、切除できる人は切除することによって
予後が延長するという、きちんとしたエビデンスがあるからです。
たとえば膵臓からの転移は、がんが全身に広がっていると考えられるため、手術の効果は限定的です。一方、大腸からの転移は、全部取り切れるのであれば、たとえ数が多くても手術で予後が延びるというエビデンスがあります。ただし、数が多いほど手術は難しく再発もしやすいので、実際に手術できるかは専門医が判断します。

二見いすず
そうなんですね。

川﨑洋太Dr.
そのためここからは大腸からの転移、大腸がん肝転移に関してお伝えしていきます。
検査して大腸がん肝転移と診断されたら、どのくらい進行しているのかをみて、それに合わせて手術を先行するのか、もしくは薬物療法の後に手術をするのかを決めていきます。

二見いすず
手術になった場合、もともとの大腸がんから先に手術するのですか？
それとも転移した肝臓の方から手術するのでしょうか？

川﨑洋太Dr.
私のいる鹿児島大学では、先に大腸の手術をすることが多いです。
その後およそ１ヶ月後に肝臓の手術をします。
大腸がんに関しては、早期で見つけることができればかなりの確率で治るので、健康意識の高い方は、便潜血検査などの大腸がん検診を定期的に受けている方もいます。

二見いすず
検査の大切さを改めて感じますね。さて、今月は肝臓がんについて
鹿児島県医師会 川﨑洋太ドクターに貴重なお話をしていただきました。
川﨑さん、４週にわたりありがとうございました。

川﨑洋太Dr.
ありがとうございました。